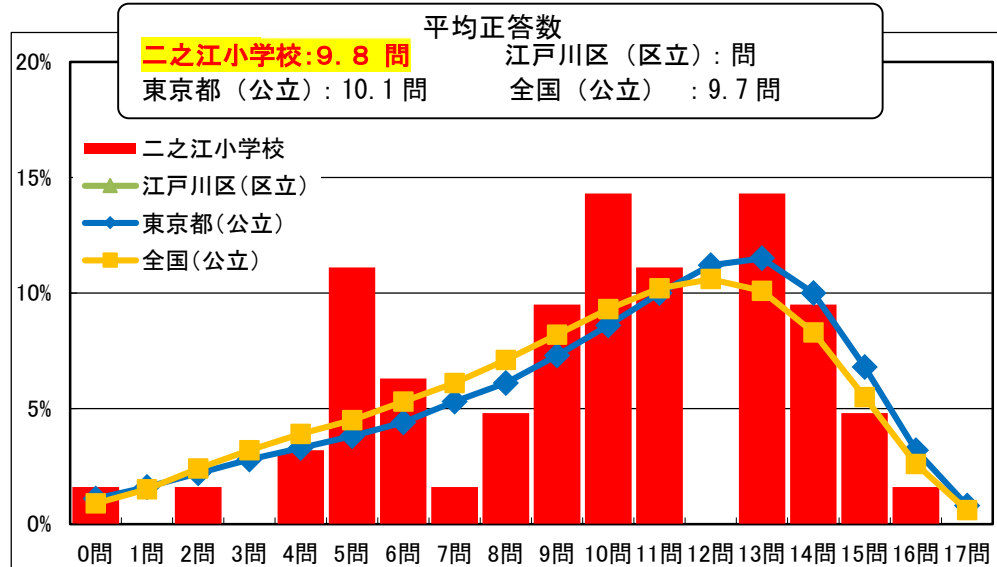


令和7年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【理科】二之江小学校

正 答 数 分 布



<四分位における割合(都全体の四分位による)>

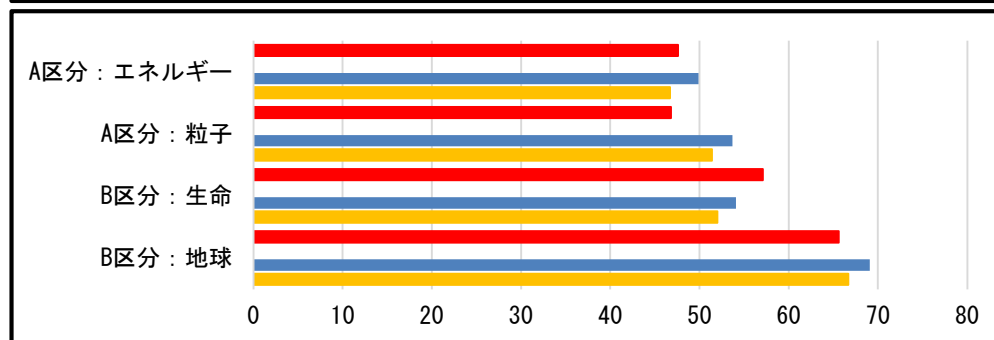
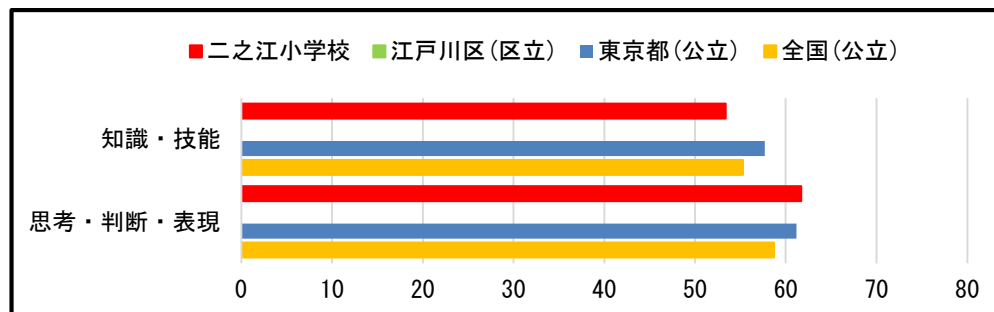
理 科	上位 ← → 下位			
	A層 14～17 問	B層 12～13 問	C層 9～11 問	D層 0～8 問
二之江小学校	15.9	30.2	28.6	25.4
江戸川区 (区立)				
東京都 (公立)	20.8	22.7	25.9	30.5
全国 (公立)	17.0	20.7	27.7	34.9

【平均正答率の差】

二之江小学校	58.0%
江戸川区 (区立)	%
東京都 (公立)	60.0%
全国 (公立)	57.1%
都との差	-2ポイント

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都 (公立) のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【分析結果と授業改善に向けて】

【分析結果と授業改善に向けて】

本校の平均正答率は58.0% (都60.0%、全国57.1%) であった。都との差は-2ポイントであった。「『生命』を柱とする領域」では本校の平均正答率は57.1% (都54.1%、全国52.0%) であった。本校の平均正答率は都より3ポイント高かった。植物の花粉の観察やヘチマの体の作りなど、観察や実験を通して学習してきた成果が出た。特に設問3(1)の「ヘチマの花のつくりや受粉の知識」を問う設問では本校の平均正答率が82.6% (都69.7%、全国70.7%) で都より12.9ポイント上回ることができた。一方、「『粒子』を柱とする領域」では、本校の平均正答率が46.8% (都53.7%、全国51.4%) と都との差が-6.9ポイントであった。特に設問2(1)の「アルミニウム、鉄、銅について電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ」を考える設問では、本校の平均正答率は3.2% (都12.8%、全国10.6%) であった。この問題は第3学年の学習内容で、「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識」が十分に身につけていないことが分かる。授業改善に向けて、日々の学習で、問題の解決の見通しをもったり、根拠のある予想や仮説を考えたりする機会を設けること。自然の事物や現象に働きかけることで得られた情報から、要因や根拠を見出したり、観察、実験結果からその傾向を見出したり考察したりできるように取り組ませていきたい。また、既習事項を確実に身に付けるためにICTを活用して習熟を図ることも重視していく。